繊維補強セメント系複合材料の新しい利用法研究委員会（JCI-TC-104A）
第７回委員会議事録案

日　時：平成 24 年 3 月 13 日（火）15:00～17:30
場　所：JCI 会議室
出席者：金子，国枝，金久保，栗橋，浅井，網野，石原，伊藤，小川，菊田，塩永，斯波，
諏訪田，瀬古，長井，前田（徳），山野辺，渡辺，浅野，JCI 井上
欠席者：磯，岩波，永井，平田，堀口，前田（信），室賀（敬称略）
資　料：

7-1　第 7 回委員会議事次第
7-2　第 6 回委員会議事録案
7-3　第 5 回幹事会議事録案
7-4　報告書目次案
7-5　第 1 部の執筆概要（案）
7-6　第 4 章新しい利用法開発の道標に関する執筆内容
7-7　第 7 回性能評価 WG 議事録案
7-8　性能評価 WG　報告書目次（案）
7-9　繊維補強セメント複合材料の分類
7-10　ひび割れ幅に関する架橋則から部材評価にいたる一連の流れの紹介
7-11　短繊維の付着性状に基づくひび割れ幅評価の提案
7-12　繊維補強コンクリートにおける環境対応のあり方
7-13　土木構造物への適用例
7-14　シンポジウム論文募集

議　事：

1.　委員長挨拶

金子委員長より，開会の挨拶があった.

2.　議事録の確認

第 6 回全体委員会の議事録案が確認された．また，第 5 回幹事会の議事録案が紹介された．さらに，研究委員会において，報告書に CD-ROM を添付することが了承されたこと，用語の定義について意見があったこと，などが報告された.

3.　報告書目次案および WG 報告

幹事会から提案された目次案について説明があり，基本的に了承された．なお，各 WG が担当する編において，「はじめに」と「おわりに」を統一して設けることとなった.

各 WG 主査から，WG に関する報告書の内容が報告された．審議の主な内容は以下のとおり.

＜WG1　新しい利用法＞

・材料の種類（定義）については，WG2 と引き続き調整する.
・文献は付属資料のデータベースだけでなく，本文内でも充実させる.
・最後に，メッセージ性の高い推奨される利用方法について記載する．例えば，防災施設への利用など.
・本年度の委員会経費に余剰が出そうなため，CD-ROM 等準備できるものについて対応する.

＜WG2　性能評価＞
・架橋則－平均ひずみ－平均ひび割れ幅－平均応力－部材の応答という一連の流れを示す.
・ひび割れ評価の試算例についても紹介する.

＜WG3　環境対応＞
・環境に与えるインパクトについては，環境負荷の大小について定量的に示せないため，単に正負を示す矢印で表す.

＜全体について＞
・報告書の各編において，「材料・構造のシームレス化」のキーワードをできるだけ取り込むと同時に，報告書名にもこれを副題として使用する.
・用語や図番号など，各部（WG）内での統一を出来る限り行う.

4.　今後のスケジュール
＜委員会報告書の作成について＞
・7 月末に委員会全体の完成原稿が整うように，各 WG の中で調整を行う.

＜シンポジウムについて＞
・9/20 に予定されているシンポジウムについて，午前に委員会報告，午後に論文発表を予定している．招待講演などの企画案があれば，国枝幹事長まで連絡することとした.

＜年次大会報告書について＞
年次大会報告書を作成するにあたり，各 WG で A4 で 2 ページ程度を目途に作成し，国枝幹事長が集約する（4/10 まで）.

以上